

特 251

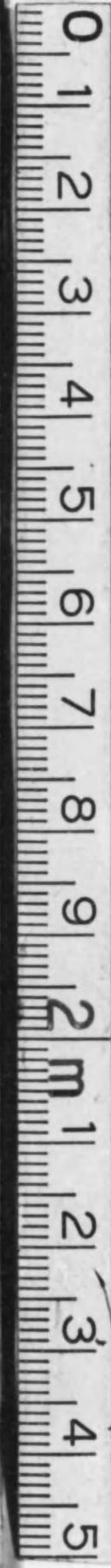
577

鮮滿支旅行手引

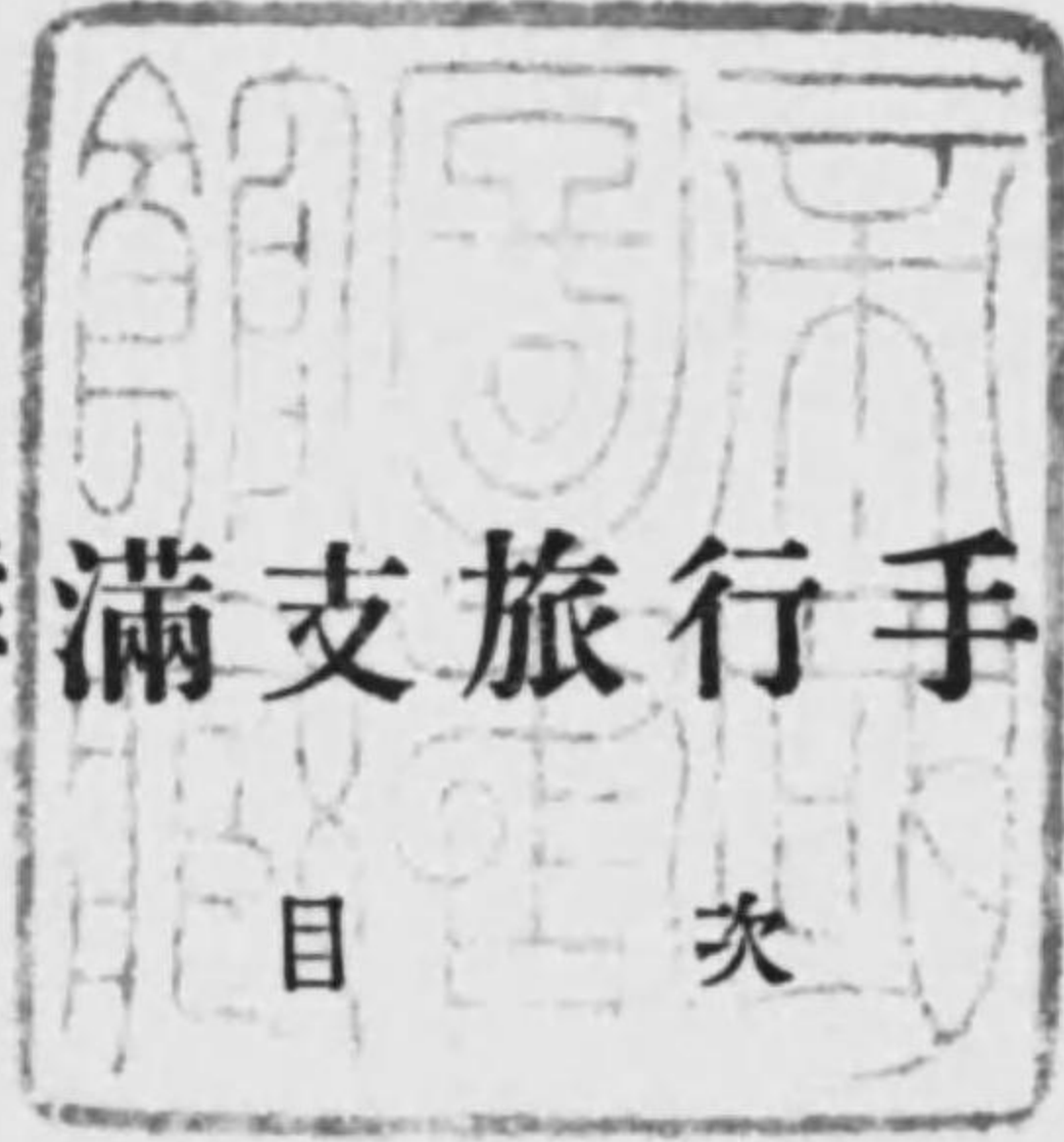
南滿洲鐵道株式會社東京支社庶務課

33
20

始



特251
577



鮮滿支旅行手引

目次

旅行計劃	頁 1
乗車船券	2
單獨旅行の場合	3
團體旅行の場合	9
各地汽車汽船賃金	11
旅館宿泊料	19
遊覽と車馬	25
内地と異なる事情	38
税	關38
通	貨40
標	準	時
旅	券43
撮	影	其
土	産	物
其他	44
其他	45
團體旅行の注意事項	50



發行所寄贈本

旅行計劃

百里の歩旅は汽車一日の行程となり、合ひの宿場の泊りは夜行列車が奪ひ去つて居る世である。漫然と旅路を辿る雲水行脚の如き旅は到底現代には容れられぬ趣味であつて、旅客は常に「旅程に無駄なきやう、時間を有効に」と念願して居る。

船車の選擇、宿泊の考慮など近郊一二泊の旅にさへ相當苦心が拂はれるが普通である、ましてや、短きも旬日を要し長きは月餘の日子を費す鮮滿及支那の旅行には、其の徑路に船車に宿泊に將た又視察、觀光の地に、旅前可なりの研究考慮が費されねばならぬ、そして作られた旅行日程表は、旅先きで旅程變更或は豫定齟齬の事なきやう完璧のものでなければならぬ。特に團體旅行の場合には、途中の旅程變更は船車座席、旅館其他色々の方面の手違ひを醸し、意外の迷惑不快を購ふ原となる故、主催者は周到の注意の下に旅行日程の編成に充らねばならない。但し旅行日程作製の如き複雑なる業を一般に強ひるは無理の注文かも知らぬが夫は必しも自ら手を下さず共、東京、大阪、下

關の鮮滿案内所に相談さるれば其目的は達せられる。同所では常に季節に適した標準旅程を幾種も取揃へ一般申込者に無料提供し、又其他印刷物の要求及質問に喜んで應ずるからである。

旅行日程に次ぎ必要のもので、誰れもが知らんとして其計算に惑ふのは旅費の見積りである、船車賃金、旅館宿料、觀光車馬の料金等色々の關係を、朝鮮滿蒙から支那本土に亘る廣い地域に於て悉く知るは至難であり、又團體の場合の割引、土地々々の事情など一寸分らないのが當然であるから、之も最寄りの鮮滿案内所に相談さる方が宜い。案内所は滿鐵會社と朝鮮總督府鐵道局とが共同經營に依り、専ら鮮滿方面の事情紹介並旅客貨物運送の斡旋を主要業務とするもので鐵道省線をはじめ關係鐵道及汽船は勿論、鮮滿各地の旅館業者及車馬業者とも連絡を持し、旅行上必要なる總ゆる機關に對し豫約或は確保の手配を爲し得る用意があるから、前述の旅程作製同様に案内所の利用をお勧めする。

乗車船券

朝鮮滿洲の各驛へは關釜連絡船を介し鐵道省線の各驛から連絡の通し切符を買ふことが出来る。

又汽船を介し大連、青島、上海及浦鹽を経由する連絡切符も鐵道省線と滿鐵線、支那鐵道線並蘇國鐵道線の主要驛間に發賣されて居る。云ひ代へれば、日本内地から鮮滿支那へは一枚の切符で行けるのである。其切符は停車場並ジャバンツーリストビュローの各案内所で發賣するが、東京、大阪、下關の鮮滿案内所のツーリストビュローは此方面の切符を専門に取扱て居る。

鮮滿支那方面の旅客は、行き切りの旅でなき限り、成るべく連絡往復又は周遊の切符を購求するが徳用である。往復、周遊の切符は船車賃の割引があり又途中枝線旅行に對して特典がある。以下單獨の場合と團體の場合とに分ち割引切符の各種に付き大要を述べることにする。

單獨旅行の場合

朝鮮滿洲往復券 (朝鮮經由)……鐵道省、朝鮮鐵道局、朝鮮鐵道會社及南滿洲鐵道の各驛間に發

賣し、賃金は汽車汽船共二割引、通用期間二ヶ月である。

滿洲往復券 (大阪商船大連航路經由)……鐵道省線主要驛と南滿洲鐵道線左記主要驛間に發賣し、賃金は汽車二割引、大連航路一割引、通用期間二ヶ月である。

大連、金州、普蘭店、瓦房店、大石橋、海城、鞍山、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、旅順、營口、撫順の各驛行。

日鮮滿周遊券……片道關釜連絡船、片道大連航路を經由し、本邦滿洲朝鮮を周遊するもので、其徑路は

- (甲) 初發驛—神戸又は門司—大連—奉天—安東—京城—釜山—下關—發驛歸著
- (乙) 甲の正反對徑路

の二つがあり、賃金は各鐵道並關釜連絡船二割引、大阪商船一割引、通用期間二ヶ月である。本券の發賣驛及賃金次の如し。

發賣驛	一等	二等	三等
東京又は新橋	五三・七〇	五三・四〇	四九・八〇
横濱	五三・四〇	四九・八〇	四八・一〇
濱名古屋	四九・八〇	四八・一〇	四七・六〇
京都	四七・六〇	四七・三〇	四六・六〇
大阪	四七・三〇	四六・六〇	四五・三〇
神戸	四六・六〇	四五・三〇	四四・八〇
戶姫	四五・三〇	四四・八〇	四三・九〇
路岡	四三・九〇	四三・〇〇	四二・八〇
山廣	四二・八〇	四一・九〇	四一・〇〇
鳥下關又は門司	三八・〇〇	四〇・〇〇	四〇・〇〇
博多	四〇・〇〇	四三・五〇	四二・四〇
長崎	四三・五〇	四二・四〇	四一・三〇
熊本	四二・四〇	四一・三〇	四〇・二〇
本鹿兒島	四一・三〇	四〇・二〇	三九・一〇

客	旅		般	
	一等	二等	一等	二等
學及	二六・二〇	二六・一〇	二六・一〇	二五・五〇
校	二六・一〇	二六・〇〇	二五・五〇	二五・〇〇
教	二六・〇〇	二五・七〇	二五・〇〇	二四・七〇
生	二五・七〇	二五・〇〇	二四・七〇	二四・〇〇
職	二五・〇〇	二四・〇〇	二四・〇〇	二三・九〇
員	二四・〇〇	二三・〇〇	二三・〇〇	二三・〇〇
徒	二四・〇〇	二三・〇〇	二三・〇〇	二三・〇〇

本券は各鐵道共途中下車回数無制限、東海道、中央、山陽、山陰、關西線中孰れの線路を徑路とするも任意等の便宜があり、又左の區間に對し賃金二割引證票が附隨して居る。

- 京城又は永登浦と仁川間
- 奉天長春間
- 撫順線
- 旅順線の各往復
- 大連青島間汽船片道

日中往復券……本券は本邦と支那本土主要都市間に限り發賣するもので、汽車賃二割引、通用期間三ヶ月とし、徑路には左の二途がある。

- (1) 朝鮮經由往復 朝鮮を經由し奉天から支那北寧線に入り目的地に達し、又同一徑路で發驛に歸著するも

のであるが、枝線に亘る京城仁川、奉天大連、奉天長春及天津北平間に乗る場合は、其區間往復には矢張り二割引の賃金で切符を發購で買ふことが出来る。

(ロ) 青島經由往復……日本郵船、大阪商船及原田汽船各會社の青島航路で神戸又は門司から青島に渡り、支那膠濟線で目的地に達し、同一徑路で發購に歸著するものである。

日中周遊券……本券は本邦主要都市を發し朝鮮、滿洲、支那を周遊するもので、其徑路は左の六途ある。

第一徑路 發購から朝鮮を經由し奉天から支那鐵道にて北平、漢口に至り、日清汽船會社の汽船で揚子江を上海まで下り、上海から長崎、門司或は神戸まで日本郵船會社上海航路に依り發購に歸著

第二徑路 第一徑路の正反對路

第三徑路 發購から朝鮮經由奉天から支那鐵道にて北平に達し、天津に戻り南京に南下し更に上海に至り、日本郵船、上海航路に依り長崎門司或は神戸に上陸の上發購に歸著。

第四徑路 第三徑路の正反對路。

以上四ヶ徑路の通用期限四ヶ月

第十一徑路 第一、第三徑路の順路にて北平に達し、天津に戻り濟南まで南下し更に膠濟線で青島に出で、

日本郵船、大阪商船或は原田汽船の青島航路に依り門司又は神戸に上陸の上發購に歸著。

第十二徑路 第十一徑路の正反對路

右二ヶ徑路の通用期限三ヶ月

本券は神戸門司、神戸長崎、又門司長崎間、南京上海間は汽車汽船何れでも選ぶことが出来る。又日鮮滿支各鐵道の枝線乗車の場合は往復汽車賃二割引を受くる特典がある。

日滿往復券……本券は鐵道省線主要驛から東方鐵道線の雙城堡、哈爾濱、安達、齊々哈爾、海

拉爾及滿洲里の相互間に發賣する往復切符で、東支線を除く各汽車賃二割引、浦鹽及大連航路賃一割引、ウスリー線三等に限り二割引、通用期間六十日間であるが、其徑路には左の三途がある。

(イ) 朝鮮經由往復……發購—下關—釜山—安東—奉天—長春—著驛の往復

(ロ) 大連經由往復……發購—神戸又は門司—大連—長春—著驛の往復

(ハ) 浦鹽經由往復……發購—敦賀—浦鹽—綏分河—著驛の往復

(ロ) は大阪商船大連航路、(ハ) は北日本汽船浦鹽航路の汽船に依るもので又(ハ)の浦鹽綏分河間は蘇國ウスリ線に依るを以て此徑路だけは正式の外國旅行券携行の必要がある。

日滿周遊券……本券は日鮮滿各地及蘇國沿海洲を周遊する切符で通用期間九十日間、徑路には左記四徑路がある。

第一徑路 發驛—下關—釜山—安東—奉天—長春—哈爾濱—綏分河—浦鹽—敦賀—發驛歸著

第二徑路 第一徑路の正反對路

第三徑路 發驛—門司—大連—長春—哈爾濱—綏分河—浦鹽—敦賀—發驛歸著

第四徑路 第三徑路の正反對路

本券の割引率は前項往復券と同一である。又蘇國鐵道を通過する關係上、外國旅行券の携行を要する點も浦鹽經由往復券と同一である。

學生及教職員

は左記の通前述各割引切符より一層高率の割引を孰れの船車にも適用される。

故に切符購求の際は所定の在學證明書と割引證を出札口に提出すると宜い。但し其割引は學生は三等に限り、教職員は三等又は二等に限つて居る。

學生及教職員割引——鐵道省線二割引 朝鮮鐵道四割引 滿鐵線五割引 各汽船二割引

團體旅行の場合

團體を日鮮滿、日中、日滿の三種別とする。右三種の團體の取扱方は大體同一であるが細目に於ては多少の相違がある。之等を詳細に記述するは紙面が許さぬから茲には其の概要を摘記する。

(イ) 十人以上から團體の取扱ひをする、二十人以上になると人數に應じて日鮮滿の鐵道は團體監督者を左の割合で無賃待遇する。

二十人以上五十人迄は内一人、五十人以上は五十毎に内一人

(ロ) 團體の徑路及取扱地域は前項の單獨旅行の場合と同一で鮮滿支那の往復或は回遊に限る(片道旅行の團體は各鐵道各別の割引規程に依り取扱ふ。)

但し本邦から發し本邦に歸著するを條件とし、必しも同一驛に發著を要せず。

(ハ) 旅行先で枝線に新たに旅行する場合は原券と同一の割引が受けられる。

(ニ) 學生及教職員團體は一般團體より高率なる所定割引が受けられる。

- (ホ) 支那鐵道の賃金は銀弗、東支及蘇國鐵道の賃金は金弗建であるから、毎月發表される公定率で圓貨に換算して賃金を定める。
- (ヘ) 浦鹽經由の團體は外國旅行免狀を受けてからでないとい切符は求められない。
- (ト) 各鐵道及汽船の賃金割引率左の通り。

運輸機關	學生團體			一般團體
	十人以上	二十人以上	十人以上	
(含鐵道省船線)	三割引以上	五割引	三割引	五割引
朝鮮鐵道	五割引	五割引以上	三割引	五割引
滿鐵線	五割引	六割引以上	三割引	五割引
東支鐵道	五人以上五割引		一、二等十五人以上 三等三十人以上	四割引

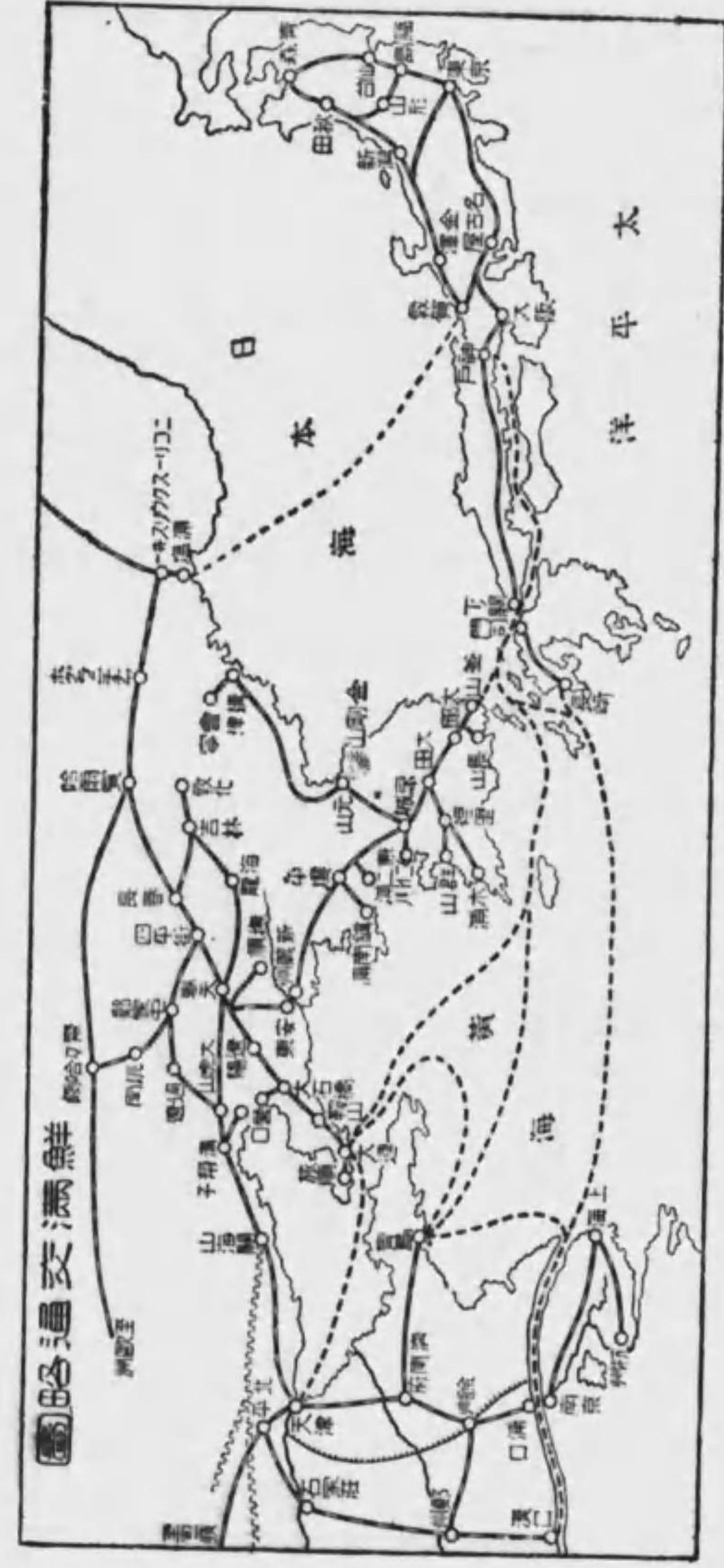
ウスリ鐵道	十人以上四割引		支那國有鐵道	大連、青島、上海、浦鹽各航路	大連上海間航路	揚子江航路
	片道二割五分引	片道三割引				
	往復五割引	往復五割引	二割引	二割引	二割引	十人以上 特等一割引
			一、二等三限リ 二割五分引	三十人以上二割五分引 五十人以上三割引	二割五分引	十人以上 官船一等二割引
			一、二等三限リ 三割引	一、二等三限リ 三十人以上二割五分引 五十人以上一割五分引	一割引	
			三割引以上	一、二等三限リ 五十人以上二割引	一割引	

○日中及日滿連絡學生團體に限り省線十人以上割引は五割引とし、又學生も二等乗車を認む。

各地汽車汽船賃金

日鮮滿支那に於ける各鐵道及汽船の普通旅客運賃及急行其他料金は次の通りである。前項單獨及

團體の割引を計算する場合は本賃金を基礎とすべきであるが、日滿及日中周遊券の如き弗單位、賃金を包含する切符の價は最寄鮮滿案内所に就き其都度確かめ乞ふ。



鐵道省線旅客普通運賃 (右行—三等運賃 左行—二等運賃)

區間	東京	名古屋	大阪	廣島	博多	長崎	神戸	門司	釜山
名古屋	九四〇〇								
大阪	一六二〇	五二六三							
廣島	一六八七	一一五七	八四三二						
博多	二〇〇六	一五七九	一三六〇	七三九二					
長崎	二一三〇	一八九二	一五七九	一五〇五	五二六二				
神戸	二一六六	一八九九	一五八四	一五〇五	二〇〇六	一五七四			
門司	一九九六	一四七四	一六〇一	一四〇五	二〇四八	一五七四			
釜山	二六三三	二〇九二	一九九一	一三六〇	九四八九	一四七〇	一八九三		
區間									七三六〇

同上運賃料
 一等 上段 七五〇〇
 二等 下段 四三〇〇

金料行急上同

新程	區別	普通急行料	特別急行料
八八四〇〇	一〇〇	五四二〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇
一〇〇〇	一〇〇	五〇三〇〇	五〇三〇〇

朝鮮線旅客普通運賃

(右行—三等運賃 左行—二等運賃)

區間	釜山	大邱	大田	京城	元山	會寧	仁川	平壤	安東
釜山	二六四	二一三	一一八	一四七	二〇一	一七四	一三三	一〇七	二六四
大邱	六七三	三二二	一八〇	二〇七	二七〇	二四三	二〇三	一六四	六七三
大田	九〇三	四〇九	二六三	二八五	三三〇	三〇三	二六三	二二四	九〇三
京城	一四〇	一〇六	六八	一〇一	一三三	一〇六	七四	五〇	一四〇
元山	一七〇	一三六	八四	一二〇	一五二	一二五	九三	六七	一七〇
會寧	二〇〇	一六六	一〇九	一四一	一七三	一四六	一一〇	八四	二〇〇
仁川	二四〇	一九〇	一二九	一六一	一九四	一六七	一三〇	九七	二四〇
平壤	二八〇	二二〇	一五九	二〇六	二三八	二六一	一六三	一二〇	二八〇
安東	三二〇	二六〇	一九九	二五二	三〇五	二七八	二〇〇	一五〇	三二〇
大邱	三六〇	三〇〇	二三九	二九二	三四五	三一〇	二四二	一九〇	三六〇
大田	四〇〇	三四〇	二七九	三三二	三八三	三五六	二八四	二三〇	四〇〇
京城	四四〇	三八〇	三一〇	三六三	四一四	三八七	三一五	二六〇	四四〇
元山	四八〇	四二〇	三五〇	四〇四	四五五	四二八	三五〇	三〇〇	四八〇
會寧	五二〇	四六〇	三九〇	四四三	四九四	四六七	三八〇	三三〇	五二〇
仁川	五六〇	五〇〇	四三〇	四八〇	五三一	四八四	四一〇	三六〇	五六〇
平壤	六〇〇	五四〇	四七〇	五二〇	五七一	五二四	四五〇	四〇〇	六〇〇
安東	六四〇	五八〇	五一〇	五六〇	六一〇	五七三	四九〇	四四〇	六四〇
大邱	六八〇	六二〇	四五〇	六〇〇	六五〇	六一三	五三〇	四八〇	六八〇
大田	七二〇	六六〇	四九〇	六四〇	六九〇	六五三	五七〇	五二〇	七二〇
京城	七六〇	七〇〇	五三〇	六八〇	七三〇	六九三	六一〇	五六〇	七六〇
元山	八〇〇	七四〇	五七〇	七二〇	七七一	七二四	六四〇	五九〇	八〇〇
會寧	八四〇	七八〇	六一〇	七六〇	八一一	七八四	七〇〇	六五〇	八四〇
仁川	八八〇	八二〇	六五〇	八〇〇	八五〇	八一三	七三〇	六八〇	八八〇
平壤	九二〇	八六〇	六九〇	八四〇	八九〇	八五三	七七〇	七二〇	九二〇
安東	九六〇	九〇〇	七三〇	八八〇	九三〇	八九四	八〇〇	七五〇	九六〇
大邱	一〇〇〇	九四〇	七七〇	九二〇	九七一	九二四	八四〇	七九〇	一〇〇〇
大田	一〇四〇	九八〇	八一〇	九六〇	一〇一一	一〇一四	九二〇	八七〇	一〇四〇
京城	一〇八〇	一〇二〇	八五〇	一〇〇〇	一〇五〇	一〇一三	九三〇	八八〇	一〇八〇
元山	一一二〇	一〇六〇	八九〇	一〇四〇	一〇九〇	一〇五三	九五〇	九〇〇	一一二〇
會寧	一一六〇	一〇〇〇	九三〇	一〇八〇	一一三〇	一〇九三	九七〇	九二〇	一一六〇
仁川	一二〇〇	一〇四〇	九七〇	一一二〇	一二七一	一二三〇	一〇〇〇	九五〇	一二〇〇
平壤	一二四〇	一〇八〇	一〇一〇	一二六〇	一二一一	一二二四	一〇四〇	九九〇	一二四〇
安東	一二八〇	一二二〇	一〇五〇	一二〇〇	一二五〇	一二一三	一〇八〇	一〇三〇	一二八〇
大邱	一三二〇	一二六〇	一〇九〇	一二四〇	一二九〇	一二五三	一〇〇〇	九五〇	一三二〇
大田	一三六〇	一二〇〇	一一三〇	一二八〇	一三三〇	一二九三	一〇二〇	九七〇	一三六〇
京城	一四〇〇	一二四〇	一一七〇	一三二〇	一三七〇	一三三三	一〇四〇	九九〇	一四〇〇
元山	一四四〇	一二八〇	一二一〇	一三六〇	一四一〇	一三七三	一〇六〇	一〇一〇	一四四〇
會寧	一四八〇	一三二〇	一二五〇	一四〇〇	一四五〇	一四一三	一〇八〇	一〇三〇	一四八〇
仁川	一五二〇	一三六〇	一二九〇	一四四〇	一四九〇	一四五三	一〇〇〇	九五〇	一五二〇
平壤	一五六〇	一四〇〇	一三三〇	一四八〇	一五三〇	一四九三	一〇二〇	九七〇	一五六〇
安東	一六〇〇	一四四〇	一三七〇	一五二〇	一五七〇	一五三三	一〇四〇	九九〇	一六〇〇
大邱	一六四〇	一四八〇	一四一〇	一五六〇	一六一〇	一五七三	一〇六〇	一〇一〇	一六四〇
大田	一六八〇	一五二〇	一四五〇	一六〇〇	一六五〇	一六一三	一〇八〇	一〇三〇	一六八〇
京城	一七二〇	一五六〇	一四九〇	一六四〇	一六九〇	一六五三	一〇〇〇	九五〇	一七二〇
元山	一七六〇	一六〇〇	一五三〇	一六八〇	一七三〇	一六九三	一〇二〇	九七〇	一七六〇
會寧	一八〇〇	一六四〇	一五七〇	一七二〇	一七七一	一七三〇	一〇四〇	九九〇	一八〇〇
仁川	一八四〇	一六八〇	一六一〇	一七六〇	一八一一	一七八四	一〇六〇	一〇一〇	一八四〇
平壤	一八八〇	一七二〇	一六五〇	一八〇〇	一八五〇	一八一三	一〇八〇	一〇三〇	一八八〇
安東	一九二〇	一七六〇	一六九〇	一八四〇	一九〇〇	一八六三	一〇〇〇	九五〇	一九二〇
大邱	一九六〇	一八〇〇	一七三〇	一八八〇	一九三〇	一九〇三	一〇二〇	九九〇	一九六〇
大田	二〇〇〇	一八四〇	一七七〇	一九二〇	一九七〇	一九三三	一〇四〇	一〇一〇	二〇〇〇
京城	二〇四〇	一八八〇	一八一〇	一九六〇	二〇一〇	一九七三	一〇六〇	一〇三〇	二〇四〇
元山	二〇八〇	一九二〇	一八五〇	二〇〇〇	二〇五〇	二〇一三	一〇八〇	一〇五〇	二〇八〇
會寧	二一二〇	一九六〇	一八九〇	二〇四〇	二〇九〇	二〇五三	一〇〇〇	九五〇	二一二〇
仁川	二一六〇	二〇〇〇	一九三〇	二〇八〇	二一三〇	二〇九三	一〇二〇	九九〇	二一六〇
平壤	二二〇〇	二〇四〇	一九七〇	二一二〇	二一七〇	二一三三	一〇四〇	九九〇	二二〇〇
安東	二二四〇	二〇八〇	二〇一〇	二一六〇	二二一〇	二一七三	一〇六〇	一〇一〇	二二四〇
大邱	二二八〇	二一二〇	二〇五〇	二二〇〇	二二五〇	二二一三	一〇八〇	一〇三〇	二二八〇
大田	二三二〇	二一六〇	二〇九〇	二二四〇	二三〇〇	二二六三	一〇〇〇	九五〇	二三二〇
京城	二三六〇	二二〇〇	二一三〇	二二八〇	二三三〇	二三〇三	一〇二〇	九九〇	二三六〇
元山	二四〇〇	二二四〇	二一七〇	二三二〇	二三七〇	二三三三	一〇四〇	九九〇	二四〇〇
會寧	二四四〇	二二八〇	二二一〇	二三六〇	二四一〇	二三七三	一〇六〇	一〇一〇	二四四〇
仁川	二四八〇	二三二〇	二二五〇	二四〇〇	二四五〇	二四一三	一〇八〇	一〇三〇	二四八〇
平壤	二五二〇	二三六〇	二二九〇	二四四〇	二四九〇	二四五三	一〇〇〇	九九〇	二五二〇
安東	二五六〇	二四〇〇	二三三〇	二四八〇	二五三〇	二四九三	一〇二〇	九九〇	二五六〇
大邱	二六〇〇	二四四〇	二三七〇	二五二〇	二五七〇	二五三三	一〇四〇	一〇一〇	二六〇〇
大田	二六四〇	二四八〇	二四一〇	二五六〇	二六一〇	二五七三	一〇六〇	一〇三〇	二六四〇
京城	二六八〇	二五二〇	二四五〇	二六〇〇	二六五〇	二六一三	一〇八〇	一〇五〇	二六八〇
元山	二七二〇	二五六〇	二四九〇	二六四〇	二六九〇	二六五三	一〇〇〇	九九〇	二七二〇
會寧	二七六〇	二六〇〇	二五三〇	二六八〇	二七三〇	二六九三	一〇二〇	九九〇	二七六〇
仁川	二八〇〇	二六四〇	二五七〇	二七二〇	二七七〇	二七三三	一〇四〇	一〇一〇	二八〇〇
平壤	二八四〇	二六八〇	二六一〇	二七六〇	二八一〇	二七七三	一〇六〇	一〇三〇	二八四〇
安東	二八八〇	二七二〇	二六五〇	二八〇〇	二八五〇	二八一三	一〇八〇	一〇五〇	二八八〇
大邱	二九二〇	二七六〇	二六九〇	二八四〇	二八九〇	二八五三	一〇〇〇	九九〇	二九二〇
大田	二九六〇	二八〇〇	二七三〇	二八八〇	二九三〇	二八九三	一〇二〇	九九〇	二九六〇
京城	三〇〇〇	二八四〇	二七七〇	二九二〇	二九七〇	二九三三	一〇四〇	九九〇	三〇〇〇
元山	三〇四〇	二八八〇	二八一〇	二九六〇	三〇一〇	二九七三	一〇六〇	九九〇	三〇四〇
會寧	三〇八〇	二九二〇	二八五〇	三〇〇〇	三〇五〇	三〇一三	一〇八〇	九九〇	三〇八〇
仁川	三一二〇	二九六〇	二八九〇	三〇四〇	三〇九〇	三〇五三	一〇〇〇	九九〇	三一二〇
平壤	三一六〇	三〇〇〇	二九三〇	三〇八〇	三一三〇	三〇九三	一〇二〇	九九〇	三一六〇
安東	三二〇〇	三〇四〇	二九七〇	三一二〇	三一七〇	三一三三	一〇四〇	九九〇	三二〇〇
大邱	三二四〇	三〇八〇	三〇一〇	三一六〇	三二一〇	三一七三	一〇六〇	九九〇	三二四〇
大田	三二八〇	三一二〇	三〇五〇	三二〇〇	三二五〇	三二一三	一〇八〇	九九〇	三二八〇
京城	三三二〇	三一六〇	三〇九〇	三二四〇	三二九〇	三二五三	一〇〇〇	九九〇	三三二〇
元山	三三六〇	三二〇〇	三一三〇	三二八〇	三三三〇	三二九三	一〇二〇	九九〇	三三六〇
會寧	三四〇〇	三二四〇	三一七〇	三三二〇	三三七〇	三三三三	一〇四〇	九九〇	三四〇〇
仁川	三四四〇	三二八〇	三二一〇	三三六〇	三四一〇	三三七三	一〇六〇	九九〇	三四四〇
平壤	三四八〇	三三二〇	三二五〇	三四〇〇	三四五〇	三四三三	一〇八〇	九九〇	三四八〇
安東	三五二〇	三三六〇	三二九〇	三四四〇	三四九〇	三四五三	一〇〇〇	九九〇	三五二〇
大邱	三五六〇	三四〇〇	三三三〇	三四八〇	三五三〇	三五〇三	一〇二〇	九九〇	三五六〇
大田	三六〇〇	三四四〇	三三七〇	三五二〇	三五七〇	三五三三	一〇四〇	九九〇	三六〇〇
京城	三六四〇	三四八〇	三四一〇	三五六〇	三六一〇	三五七三	一〇六〇	九九〇	三六四〇
元山	三六八〇	三五二〇	三四五〇	三六〇〇	三六五〇	三六一三	一〇八〇	九九〇	三六八〇
會寧	三七二〇	三五六〇	三四九〇	三六四〇	三六九〇	三六五三	一〇〇〇	九九〇	三七二〇
仁川	三七六〇	三六〇〇	三五三〇	三六八〇	三七三〇	三七〇三	一〇二〇	九九〇	三七六〇
平壤	三八〇〇	三六四〇	三五七〇	三七二〇	三七七〇	三七三三	一〇四〇	九九〇	三八〇〇
安東	三八四〇	三六八〇	三六一〇	三七八〇	三八三〇	三八〇三	一〇六〇	九九〇	三八四〇
大邱	三八八〇	三七二〇	三六五〇	三八二〇	三八七〇	三八三三	一〇八〇	九九〇	三八八〇
大田	三九二〇	三七六〇	三六九〇	三八六〇	三九一〇	三八七三	一〇〇〇	九九〇	三九二〇
京城	三九六〇	三八〇〇	三七三〇	三九〇〇	三九五〇	三九一三	一〇二〇	九九〇	三九六〇
元山	四〇〇〇	三八四〇	三七七〇	三九四〇	四〇〇〇	三九五三	一〇四〇	九九〇	四〇〇〇
會寧	四〇四〇	三八八〇	三八一〇	三九八〇	四〇三〇	四〇〇三	一〇六〇	九九〇	四〇四〇
仁川	四〇八〇	三九二〇	三八五〇	四〇二〇	四〇七〇	四〇三三	一〇八〇	九九〇	四〇八〇
平壤	四一二〇	三九六〇	三八九〇	四〇六〇	四一二〇	四〇七三	一〇〇〇	九九〇	四一二〇
安東	四一六〇	四〇〇〇	三九三〇	四一〇〇	四一六〇	四一三三	一〇二〇	九九〇	四一六〇
大邱	四二〇〇	四〇四〇	三九七〇	四一四〇	四二〇〇	四一六三	一〇四〇	九九〇	四二〇〇
大田	四二四〇	四〇八〇	四〇一〇	四一八〇	四二四〇	四二〇三	一〇六〇	九九〇	四二四〇
京城	四二八〇	四一二〇	四〇五〇	四二二〇	四二八〇	四二四三	一〇八〇	九九〇	四二八〇
元山	四三二〇	四一六〇	四〇九〇	四二六〇	四三二〇	四二八三	一〇〇〇	九九〇	四三二〇
會寧	四三六〇	四二〇〇	四一三〇	四三〇〇	四三六〇	四三二三	一〇二〇	九九〇	四三六〇
仁川	四四〇〇	四二四〇	四一七〇	四三四〇	四四〇〇				

支那國有線旅客普通運賃 (右行—二等運賃 左行—一等運賃)

奉天—新民	二、八〇〇	天津—北平	六、三〇〇	北平—塘沽	八、五〇〇
同—山海關	一、八〇〇	同—塘沽	二、〇〇〇	同—石家莊	一、四九〇
同—天津(東)	三、一〇〇	同—濟南	一、八〇〇	同—鄭州	三、五〇〇
同—北平	三、二〇〇	同—徐州	二、三〇〇	同—漢口	三、四〇〇
上海—南京	五、九〇〇	同—浦口	五、三〇〇	同—南口	六、四〇〇
同—杭州	四、〇〇〇	同—南京	五、四〇〇	同—張家口	六、一〇〇
四平街—鄭家屯	四、四〇〇	長春—吉林	五、九〇〇	同—洮南	六、四〇〇
同—洮南	五、六〇〇	同—蛟河	四、五〇〇	同—泰來	六、七〇〇
同—通遼	一、〇〇〇	同—敦化	九、七五〇	同—昂々溪	一、六二五

單位銀弗トス (毎月發表ノ換算率ニ依リ邦貨ニ換算ス)
 同上寢臺及急行料金
 普通急行料金 百斤又ハ其ノ未滿每ニ 一等 〇、六〇弗 二等 〇、三〇弗 三等 〇、一五弗
 特別急行料金 (北平浦口間) 一等 〇、六〇弗 二等 〇、三〇弗 三等 〇、一五弗

東支線蘇國鐵道旅客普通運賃 (右行—三等運賃 左行—二等運賃)

長春—哈爾賓	(四、七五)	哈爾賓—齊々哈爾	一、〇六〇
同—齊々哈爾	(九、九五)	同—滿洲里	三、〇三〇
同—滿洲里	(二、一五)	同—ボクラニ	一、九七〇
同—ボクラニ	(八、八五)	同—チナヤ	一、九七〇
同—チナヤ	(四、七五)		
浦鹽—同	(三、〇〇)		

() 内ハ金弗單位ニシテ連絡切符ノ場合適用シ毎月發表ノ換算率ニ依リ邦貨ニ換算ス。他ハ金留單位ニシテ地方的運賃ナリ故ニ金留運賃ハ連絡切符ノ場合ニハ適用セズ從ツテ前項ノ割引ヲ爲サザルモノトス。
 同上寢臺料 (寢臺料トハ急行寢臺座席料ノ意ナリ) 金弗單位

浦鹽—哈爾賓 一等 三、一〇 二等 二、三〇 三等 一、〇五
 長春—同 同 三、一〇 同 二、〇五 同 五〇
 滿洲里—同 同 三、一〇 同 二、三〇 同 一、〇五

各航路汽船旅客普通運賃

區間	一等	二等	三等
下關—釜山 (鐵道省)	三五五〇	七一〇〇	一二一五
敦賀—浦鹽 (北日本汽船)	五〇〇〇	三二〇〇	一三〇〇
門司—大連 (大阪商船)	五五〇〇	三七〇〇	一七〇〇
神戸—大連 (大阪商船)	六五〇〇	四五〇〇	一九〇〇
同—青島 (日本郵船)	六九〇〇	四六〇〇	二〇〇〇
同—青島 (大阪商船)	五七〇〇	三八〇〇	一六〇〇
門司—青島 (原田汽船)	八三〇〇	七八〇〇	二三〇〇
神戸—上海 (日本郵船)	六四〇〇	四〇〇〇	一九〇〇
門司—同	五〇〇〇	四五〇〇	一八〇〇
長崎—同	六〇〇〇	四二〇〇	一五〇〇
大連—同	三三〇〇	二二〇〇	七〇〇
同—青島 (大連汽船)	二七〇〇	二〇〇〇	七〇〇
同—天津 (特等)	五〇〇〇		二〇〇〇
南京—漢口 (日清汽船)	六六〇〇		一六〇〇
上海—漢口 (同)			

○下關釜山間航路運賃ニハ船中ノ食事料ヲ含マズ

單位、金圓
大連汽船上海青島天津發運賃ハ弗建別個ノ貨金ナリ

單位、銀弗

旅館と宿泊料

鮮滿及支那の主要都市に於ける日本式の旅館の設備は概して整つて居る。初めての旅行者の氣掛りの一つである宿屋の泊りは内地より鮮滿の各地の方が餘程心配がない。第一に朝鮮も滿洲も一律に茶代と云ふ面倒を旅客にかけない協定が成立つて居て、宿泊料以外に旅館での入費は單に使用人の心附だけで済む。若し團體宿泊の場合であれば一層簡單で、宿泊料は鮮滿案内所で豫め所定の割引料金で取決め(滿洲の各地に限り宿泊料は案内所に拂込み旅館券を持参すれば宜い便法もある)宿泊の豫約が出来る、此場合旅館使用人心付けは勘定の一割見當で宜い。茶代謝絶の各地旅館の宿泊料大略次の如し。

日本旅館一般宿泊料 (朝晩二食付)

朝鮮滿洲各地	宿泊料	六	圓位	四圓五十錢位	三圓五十錢位	三圓位
畫食料	三 <td>圓位</td> <td>二 <td>圓位</td> <td>一圓五十錢位</td> <td>一圓位</td> </td>	圓位	二 <td>圓位</td> <td>一圓五十錢位</td> <td>一圓位</td>	圓位	一圓五十錢位	一圓位

哈爾濱其他各地 宿泊料 十弗位 八弗位 六弗位 五弗位

食料 四弗位 三弗位 二弗位

(弗は約七掛を圓と思へば大差ない)

日本旅館團體宿泊料

朝鮮滿洲各地	中學校程度學生	二圓	四圓
	中學校以上學生	二圓五十錢	三圓
	青年團員	二圓五十錢以上	三圓
	教員軍人	三圓	四圓以上
	普通團體	三圓五十錢以上	四圓以上
	紳士團體	五圓	六圓以上

哈爾濱及支那各地旅館料金は三圓乃至六圓位で其都度定める

各地日本旅館名

釜山——鳴戸旅館、大池旅館、松井旅館、花屋旅館、荒井旅館、米屋旅館、佐々木旅館、
 松本旅館、岡本旅館、岡山旅館、岩井旅館、松屋旅館

東 萊——東萊館、鳴戸旅館、蓬萊館、荒井旅館
 慶 州——柴田旅館、朝日旅館、佛國寺旅館
 大 邱——唯屋、田中旅館、花屋、吉田旅館、三福旅館、立花旅館
 大 田——大田旅館、花屋、千歲、玉屋旅館、中川
 京 城——不知火旅館、浦尾旅館、備前屋、天真樓、京城ホテル、山本旅館、笑福旅館、御
 成旅館、村上旅館、二見旅館、豊前屋、旭旅館、大東旅館、光化門ホテル、梅屋
 仁 川——淺岡旅館、旭屋、仁川旅館、花屋
 開 城——開和館、岩倉旅館、開城旅館
 平 壤——鐵道ホテル、三根旅館、朝日旅館、大同館、つばめや、梅屋旅館、青々館
 新義州——綠屋、中津旅館、岩田、大和旅館
 元 山——愛媛館、大東館、巴館、丸金旅館、花屋旅館
 内金剛——内金剛旅館、蓬萊館

外金剛——嶺陽館、萬龍閣
 清 津——鷄林館、清進館、櫻屋
 會 寧——會寧館、博多屋
 朱 乙——千歲館、鮮仙閣、萬翠、かねた旅館
 安 東——安東ホテル、元寶館、喜久旅館、日ノ出旅館、安東館、大和館
 五龍背——五龍閣、保養館、聚樂館
 奉 天——瀋陽館、大星ホテル、大丸旅館、常磐旅館、日進館、一力旅館、滿洲館、武藏屋
 撫 順——炭礦ホテル、筑紫館、壽館、長崎屋、撫順旅館
 遼 陽——遼塔ホテル、油屋旅館
 鞍 山——近江屋ホテル、紅葉館、扇屋旅館
 湯崗子——對翠閣、玉泉館、清林館、龍泉別墅
 營 口——清林館、滿月旅館

旅 順——旅順ホテル、防長館、寶來館、福壽館
 大 連——遼東ホテル、花屋ホテル、鎮西旅館、東旅館、磐城ホテル、大連ホテル、春田旅館、東郷旅館、日本橋ホテル、辰巳旅館、三杉旅館、東洋ホテル、大和館、名古屋旅館、富士屋旅館、浪速ホテル
 四平街——植半旅館、小松屋旅館
 長 春——滿洲屋旅館、北滿旅館、西村旅館、富士見旅館、南洋旅館、大丸旅館、吉田旅館
 哈爾濱——北滿ホテル、名古屋館、紅葉館、東洋ホテル、朝日館、大和館
 昂昂溪——昂榮館(東文線昂々溪)
 齊齊哈爾——朝日旅館、龍沙旅館
 鄭家屯——鄭家屯ホテル
 吉 林——名古屋館、日清旅館、吉敷旅館
 龍井村——間島旅館、名古屋旅館、龍力旅館

浦鹽斯德——旭館、扶桑館

天津——常盤ホテル、大和ホテル、芙蓉館

北平——扶桑館、一二三館、一慶館、滿留屋

漢口——松廬家族館、竹ノ家、福田、富貴館

青島——大和ホテル、花月旅館、松葉屋、葛屋、中央ホテル

濟南——金水旅館、鶴屋ホテル、レールウェイホテル

上海——東和洋行、萬歲館、勝田館、豐陽館、常盤舍、辰巳屋、大和ホテル、東館、八代館

館

南京——寶來館、下關寶來館

上述の如く鮮滿及支那の各地には日本旅館の設備はあるが、尙此外に洋風ホテルも著名の都市には必ずある今夫等の主なるものを摘記すると、

〔釜山〕 ステーションホテル

〔京城〕 朝鮮ホテル

〔金剛山〕 長安寺ホテル、温井里ホテル（開山中ノミ開業）

〔平壤〕 鐵道ホテル

〔新義州〕 ステーション、ホテル

〔奉天〕 ヤマトホテル、都ホテル

〔撫順〕 炭礦ホテル

〔大連〕 ヤマトホテル、星ヶ浦ヤマトホテル

〔旅順〕 ヤマトホテル

〔長春〕 ヤマトホテル

〔哈爾濱〕 モデルンホテル、グランドホテル、ペラスホテル、オリエントホテル

〔天津〕 アスターハウスホテル、インペリアルホテル、クキンスホテル

〔北平〕 グランドホテル

〔漢口〕 ワゴンリーターミナルホテル

〔南京〕 ブリツザハウスホテル

〔上海〕 アスタルハウスホテル、マジユステットホテル、ハラスホテル、ホテルプラザ、

◎ 料金は一定して居ないが、普通一日一人室料は四圓乃至七圓である。

遊覽と車馬

旅客は都會地の見物に際しどう云ふ順序で何處を見物するかを第一に迷ふ。自由の一人旅なれば

其地の知己を頼り或は旅館の使用人など案内者に備ふても事済むが、時間を急ぐ旅客には嫌め観光の順序と乗物との知識を必要とする。以下記述する處は一般的各地の事情であるが之を根幹として各自適當に加除安排されんことを望む。

因みに團體旅客の案内は、滿洲に於てはジャパンプーリストビューロー又朝鮮に於ては旅館其他適當の向に鐵道から交渉し、案内の衝に充らしむることになつて居るから其點は鮮滿案内所に信賴して宜し。

一、釜山

第一案

棧橋—大廳町—龍頭山—長手通—驛

第二案

棧橋—長手通—日韓市場—龍頭—大廳町—釜山驛—草梁—釜山鎮—東萊溫泉場—驛

行程		乗物	所要時間	料金	備考
第一案		自動車	四十分	二、〇〇圓	一臺五人乗り
第二案		電車	一時間	一、一〇	東萊の入浴時間を三時間と假定
		自動車	四時間半	一〇、〇〇	
		電車	五時間	六〇	

○東萊行は電車の代りに乗合自動車を利用して宜い此料金片道四十錢、又電車は二十人以上團體の場合六割
○第二案東萊溫泉は入浴休憩或は宿泊の別に依りて日子は變るが行程には變りない。

一、慶州

第一案

驛—博物館—芬皇寺—雁鴨池—石米庫—瞻星臺—鶴林—五陵—鮑石亭—驛

第二案 (第一案ニ追加スルモノトス)

驛—佛國寺驛—佛國寺—石窟菴—佛國寺驛—掛陵—驛 (佛國寺石窟菴間坂路は車馬を通せず)

行程	乗物		所要時間	料金	備考
	第一案	第二案			
第一案	徒歩	自動車	五時間	三、二〇	距離約三里
	徒歩	自動車	二時間半	三、二〇	合客一人ニ付 八十錢引
第二案	徒歩	自動車	一日間	汽車、四〇	距離約六里
	自動車	自動車	四時間	二、九〇	合客二人以上ノ場合一圓引

慶州佛國寺間ハ汽車。又自動車ハ全部乗合ヲ使用ス。若シ自動車貸切ト爲ス場合は兩案ニテ十五圓位トス

一、京城

第一案 (電車を利用する場合)

停車場↓商品陳列館↓南大門↓朝鮮神宮↓南山公園↓恩賜科學館(以上全部徒歩)↓永樂町(電車)↓昌德宮昌慶苑(晝食)↓(電車)↓パコダ公園(電車)↓總督府↓景福宮(徒歩)↓美術品製作所(徒歩又ハ電車)↓朝鮮銀行前(夕食後本町夜景)

第二案 (遊覽自動車利用する場合)

停車場(自動車)↓商品陳列館↓南大門(自動車)↓朝鮮神宮(自動車)↓南山公園(自動車)↓恩賜科學館(自動車)↓美術品製作所(自動車)↓總督府景福宮(自動車)↓パコダ公園(自動車)↓昌德宮昌慶苑(自動車)↓中央試験所(自動車)↓葵忠壇↓清涼里(普殿下陵)↓林業試験所↓(葵忠壇から引返し夕食後本町夜景)

行程	乗物	所要時間	料金	備考
第一案	電車	八時間	二、二五	
第二案	自動車	五時間	三、五〇	合客四人未滿ハ四人分料金トス 團體ニハ特別割引アリ

自動車貸切ノ場合ハ半日約二十圓一日四十圓位

一、仁川

驛↓西公園↓市街↓東公園↓築港↓月尾島潮湯↓驛

自動車にて約三時間(潮湯休憩約二時間)乗合利用の場合二十八錢、貸切の時は三圓位

一、金剛山

特別の案内書あり鮮満案内所に申込みを乞ふ

一、平壤

停車場(電車)→大神宮前(以下徒歩)→七星門→乙密臺→箕子廟→玄武門→牡丹臺→永明寺→お牧の茶屋
 ↓浮碧樓→清流壁(大同江を屋形船にて河降)→大同門(上陸徒歩)→練光亭(徒歩)→妓生學校(以下徒
 歩又は電車)→博物館→商品陳列館→停車場

乗物	所要時間	料金	備考
自動車	三時間	一五〇〇	五人乗
電車	四時間	一〇	
人力車	四時間	三五〇	

一、安東

第一案

驛—鐵橋—無限公司製材工場—市場通—大和橋通—鎮江山—驛

第二案

驛—鐵橋—無限公司製材工場—市場通—支那町—油房—梓蠶製絲工場—元寶山—大和橋通—鎮江山—驛

行程	第一案		第二案		乗物種類	所要時間	料金	摘要
	馬車	人力車	馬車	人力車				
	馬車	人力車	馬車	人力車				
	四時間	同	八時間	同				
	二、〇〇圓	一、〇〇	三、五〇	二、〇〇				
	一臺二人乃至四人乗車		一臺二人乃至四人乗車					

○ 兩案共鐵橋見物の際對岸新義州へ渡橋し序に新義州市内を巡覽するを可とす。

一、奉 天

第一案

驛—忠靈塔—城內—小河沿—北陵—驛

第二案

驛—忠靈塔—城內—小河沿—北陵—法寧寺—天地廟—皇寺—露國忠魂碑—西塔—滿蒙毛織會社—製糖會社—松島公園—奉天神社—醫科大學—驛又は旅館

行程		乘物種類	所要時間	料 金	摘 要
第一案	馬 車	四時間	三、〇〇	一臺二人乃至四人乘車	
	自 動 車	二時間	六、〇〇	一臺三人乘車	
第二案	馬 車	九時間	四、〇〇	一臺二人乃至四人乘車	
	自 動 車	四時間	一二、〇〇	一臺三人乘車	

一、撫 順

驛—撫順炭礦事務所—大山坑—モンド瓦斯—古城子—露天掘—新市街—驛
所要時間 約四時間

車馬賃 電車一車貸切 (定員八十名) 一六、〇〇圓

電車 一般團體 一人ニ付往復 三〇

學生團體 一人ニ付往復 二〇

一、大 連

第一案

旅館—滿蒙資源館—埠頭—油房—華工收容所—西崗子公學堂—露天市場—星ヶ浦—大廣場—電話局—旅館

第二案

旅館—滿蒙資源館—電話局—大廣場—埠頭—油房—華工收容所—西崗子公學堂—露天市場—星ヶ浦—旅館

第三案

埠頭—油房—華工收容所—滿蒙資源館—電話局—大廣場—西崗子公學堂—露天市場—星ヶ浦—旅館

右三案の行程中に含まざる處で大連取引所、信濃町公設市場、工業博物館、電気遊園、中央公園、老虎灘等があるが之等は希望の有無に依り適宜取捨すること

三四

第一、二、三案			行程	乗物種類	所要時間	料 金	備 考
自動車	馬車	電車	四時間	六時間	八時間	一、二、〇〇圓	一臺四人乗車
						二、四〇	一臺二人乃至四人乗車
						・、四〇	

右は規定料金なるも團體の場合は電車を除き其の他は其の都度協定し多少の割引を爲す

一、旅 順

第一案

驛—白玉山—戦利品記念館—東鶏冠山北堡壘—博物館—爾靈山—驛

第二案

驛—爾靈山—博物館—白玉山—戦利品記念館—東鶏冠山北堡壘—驛

第三案

驛—爾靈山—博物館—白玉山—戦利品記念館—東鶏冠山北堡壘—二龍山—松樹山—水師營—驛

第四案

旅順驛—戦利品記念館—東鶏冠山北堡壘—二龍山—松樹山—水師營—博物館—爾靈山—驛

行程	第一、二案		第三、四案		乗物種類	所要時間	料 金	摘 要
	馬車	自動車	馬車	自動車				
	六時間	三時間半	八時間	四時間半			四、〇〇圓	一臺二人乃至四人乗車
			四、八〇	一一、二五			八、七五	一臺四人乗車
								一臺二人乃至四人乗車
								一臺四人乗車

三五

一、營口

第一案

旅館—營口神社—東亞煙草會社—タルク會社—營口支那公園—京奉鐵路河北驛渡船場及附近各碼頭（遼河を一望す）—四平街—廻—營口驛附近滿鐵碼頭—旅館

第二案

驛—東亞煙草會社—京奉鐵路河北驛連絡渡船場附近各碼頭（遼河を一望す）—舊市街の一部—營口驛附近滿鐵碼頭—驛

行程	乗物種類	所要時間	料 金	摘 要
第一案	馬 車	四 時 間	一、五〇	一臺二人乃至四人乗車
第二案	同	二時間半	一、〇〇	同

一、長 春

驛—南廣場—東廣場—日本橋—領事館—滿鐵醫院—公學堂—西公園

所要時間 約一時間

馬車一臺 四〇圓

一、哈爾濱

第一案

旅館—日本商品陳列館—滿鐵事務所—中央寺院—東支鐵道管理局—沖、横川兩氏ノ碑—日露協會學校—日本領事館—秋林商會—傳家甸—日本小學校—松花江—キタイスカヤ街—旅館

第二案

旅館—滿鐵事務所—秋林商會—日本領事館—日露協會學校—沖、横川兩氏ノ碑—東支鐵道管理局—日本商品陳列館—傳家甸—日本小學校—松花江—キタイスカヤ街—驛

第一、第二	行程		所要時間	料 金	摘 要
	乗物種類	所要時間			
	大型自動車	三 時 間	一〇、五〇	一臺十六人乗車	
	小型自動車	三 時 間	九、〇〇	一臺四人乗車	

各地共所要時間及料金は大體の標準を示したるものに付多少の相違を來すことあるへし

内地と異なる事情

税 關

鮮滿支那旅行者は、左記各地を通過の際託送及手廻り手荷物に對して關稅の検査を受けねばならない。然し關稅手續は心配する程の煩瑣のものでなく、普通旅行用具や適量の土産物等なれば何等顧慮を要せず簡単に済むのであるから、申告を偽り又は隠匿するなどの言動は慎まねば却て頓んだ面倒を惹起する。

滿洲又は支那に旅行の際（朝鮮を除く）旅行用具の中特に注意すべきは寫眞機其他課稅品にして此等を内地より携行する場合は、出發港の稅關にて豫め許可證明書を貰ひ受け置かぬと歸還の際課稅される、又商品見本類に對しても同様で假令揃つて居らぬ物品でも個々に一の商品であり其數量が相當ある場合は課稅されるから、斯る場合は輸入港の稅關に一時關稅を供託の上其證憑書に依り

歸還に際し戻稅を受くる方法を購し置くことを御勧めする。

尙内地歸還の際、煙草、酒類、砂糖、絹織物、毛皮、骨董品、麻雀等は特に通關面倒の物品であるから注意を要する。

釜山及下關 「關釜連絡船による場合」朝鮮に行く時も内地に歸著する時も、船内で日本稅關の簡易なる検査がある。

安 東 朝鮮から滿洲に行く時も滿洲から朝鮮へ入る時も、託送手荷物は安東驛内稅關検査所で、列車内持ち込の手廻り品は列車内で、何れも朝鮮及支那稅關の検査を受けねばならぬが、此の際立會はぬと荷物丈けその儘留め置かれるし、尙又荷物のみ先送される場合は鎖錠したものは鍵を同時に預けられぬと、そのまま立會が終るまで留置されるから特に注意せねばならぬ。

關東州 鐵道で大連に入る場合普蘭店以南の汽車中で、又汽船で入る場合は汽船内で酒、煙草等に對して検査がある。

大 連 陸路北行の際大連驛前で支那稅關の検査がある。

上海、青島、天津 上陸地點で支那税關の検査がある。尙支那内地都市に於て下車の際停車場又は停車場前で簡易な検査がある。

浦鹽斯德、ボグラニーチナヤ ソヴェット入國の際は無關税にて携帯し得る物件數量等にいろいろ制限があるが、通過旅行の場合には、あまり制限はない、而し書籍、印刷物並原稿等は可成り嚴重な検査がある。尙寫眞機一個だけは携行差支へない。ソヴェット内に於ては官憲の許可なければ絶対に撮影は出来ぬ事になつて居る。

下關、門司、長崎、神戸、敦賀 等何れも上陸地點で税關の検査がある。(大連門司神戸間大阪商船汽船内には日本税關吏が乗組んで居て船内で税關検査を受けることが出来又上海、長崎神戸間の日支連絡船にも同様日本税關吏が乗込んで居て船内で検査を受ける事が出来る)

通 貨

本邦、朝鮮、滿洲等日本の經營する鐵道沿線には日本貨幣及日本銀行、朝鮮銀行の兌換券が流通して居るから旅行上些の不便はないが、吉林、哈爾濱其他支那、蘇國の鐵道沿線に至ると、言語の不通や土地の不案内と共に、通貨の關係が煩瑣になつて来る。支那は世界中で一番通貨の複雑の國と云はれて居る通り奉天、吉林、哈爾濱、北京其他南部地方等で左記の通り全然流通貨を異にして居る。

朝鮮各地 日本銀行發行貨幣及朝鮮銀行發行貨幣(朝鮮銀行發行紙幣は歸還の際船内又は乗下船港の銀行で兩替を要する)

滿鐵沿線 朝鮮と同様。其外に横濱正金銀行發行の圓銀貨及紙幣

奉天及洮南地方 新市街を離れ支那街の買物等には奉天省當局の發行する貨幣、俗に奉天票と云ふ。

吉林方面 吉林省當局の發行する貨幣、俗に吉林官帖と云ふ。

東支鐵道沿線 蘇國貨幣(金ルーブル)と支那貨幣の哈爾濱大洋とが流通する。鐵道以外の助定に

は主として哈大洋を使用す。日本貨幣も日本人間には流通する。
 其他支那各地 支那貨幣。銀を本位とする所謂大洋元にして、北洋銀、湖北銀、廣東銀、墨西其弗、
 香港弗、日本圓銀等の種類がある。右の中最も汎く流通するは墨西其弗で、香港弗之に亞ぎ南支
 一帶、北平天津方面に通用する。此外小洋銀、銅元、票子（紙幣）等の補助貨。
 以上の如く支那内部の流通貨は頗る複雑にして一般旅行者には到底之等を、土地々々で使分けるこ
 とは出来ない。よし多少支那貨に智識ある人でも、日々に變動する銀相場に左右せられ貨幣の價に
 高低常なき以て、計算の煩鎖を避け携帯には日本貨を以てし、行く先々で當座の入要だけ兩替する
 か正金銀行信用狀を携行するかの方が便利である。

標準時

滿洲及支那の標準時は内地又は朝鮮よりも一時間遅れであるから、内地又は朝鮮から滿洲に入る

場合は、安東又は大連（汽船の場合門司發後は毎朝三十分宛遅らせる）で一時間時計を遅らせ、反
 對の場合は進める必要がある。内地より上海又は青島から支那内地に入る場合、反對に内地へ歸著
 の場合も同様である。滿洲里以東浦鹽迄及長春哈爾濱間は哈爾濱時刻に依るので南滿洲時間に二十
 六分を加へればよろしい。



内地及朝
鮮正午十
二時



南滿洲及
支那午前
十一時



哈爾濱時
刻午前十
一時二十
六分

旅券

朝鮮各地及滿鐵、東支、吉長 四洮鐵道沿線は勿論日中周遊徑路による支那鐵道沿線並開港地點

等の視察旅行には旅券の必要はないが、右以外の支那奥地旅行の場合には、帝國領事館を経て支那官憲より身邊保護の爲め旅行者に與へらるゝ一種の旅行免狀とも云ふべき護照を受けて行かれる方がよい、護照を受けんとするには二弗の收入印紙を添へて領事館に下付を出願すれば二三日或は一週間に受ける事が出来る。

尙日滿周遊徑路、即ち内地より浦鹽—ボグラニーチナヤ—哈爾濱—南滿洲を経て—内地へ或は右の反對徑路による旅行者は府縣廳より正式に外國旅行免狀の交付を受け（更らにソヴィエツト領事館の裏書を受くるを要す）之を携行せねばならぬ。

撮影 其他

鮮滿に限らず旅客が無意識に撮影又は描寫を爲し、夫れが偶々要塞地帯法に觸れ頓んだ面倒を惹起せし例は無いことでない。左に撮影又は描寫禁止の箇所を掲げ一般の參考に供する。

下關、門司を含む下關要塞地帯内の海陸

長崎を中心とする長崎要塞地帯内の海陸

釜山馬山を含む鎮海要港地帯内の海陸

元山附近永興灣要塞地帯内の海陸

大連旅順を含む關東洲防禦營造物地帯内の海陸

右の外、浦鹽斯德より綏分河に至る蘇國領土内は特に蘇國官憲の許可なき限り絶対に撮影、寫描を爲してはならない。

土 産 物

處替れば品替る各地各地で珍らしいもの欲しいものが相當あるので、手當り次第買ひ込まれるのが普通であるが、税關では旅行に必要な手廻り品以外は課税するを原則として居るから、安いと思

つたり珍らしいと思つて買ったが結局課税されて高い土産になつたと云ふやうな例もあるから餘程考慮を要する。

煙草は喫煙者に限り自用として、葉巻ならば五十本、紙巻ならば百本、刻ならば三十本の何れか一種若しくは葉巻二十五本紙巻五十本といふ程度に、認定によつて免除されてゐるが必ず検査の證印を受けねばならぬ。

土産物購入上の注意

イ、土産物類の購入選擇に就ては其土地の案内をして呉れる人によく聞き出すこと

ロ、課税されても猶安いと思はるゝもの又は非常に珍らしいと云ふやうなものでなければ買はれぬこと

ハ、滿洲、支那方面は關稅の關係上時計、寫眞機等は安き筈なれど内地の相場と比較して買はざれば買被ることあり注意さるゝこと。

ニ、内地製の輸出品を再び買ひ歸る愚を演ずる人あり注意すべきこと。

ホ、左記の品は滿洲主要都市安東、奉天、長春、大連等何れの地でも求められるが支那方面に行かれる方は北平、天津、上海等で求むる方が廉價である。() 内の品は特に哈爾濱で求めらるゝ方品種も多く價格も幾分廉價である。

絹紬、絹緞、緞子、支那刺繡、テーブル掛、其他の刺繡品、毛皮品、骨董品、支那製雜貨、砂糖、棗蓮の實等の砂糖漬、甘栗、支那素麵、寫眞機、懷中時計、煙草、酒類、翡翠(ダイヤ、アレキサンダー、ルビー、サファイア、等の寶石類)

鮮滿支各地に於ける地方的土産品

(朝鮮)

釜 山——海苔。

大 邱——林檎、杞柳製品、柿、莞草製品、陶磁器。
 大 田——柿。
 仁 川——ハム、朝鮮飴。
 京 城——人蔘を原料とする各種製劑、菓子、松の實入菓子、漢陽高麗、螺鈿漆器、莞草製編物、石器、毛皮（特に虎皮、豹皮の類）朝鮮雜貨。
 開 城——人蔘、高麗燒。
 平 壤——栗、菓子、手工品

(滿洲)

安 東——鴨綠江材細工品、絹綢、岫巖石細工。
 奉 天——毛皮。
 撫 順——石炭細工。琥珀細工

大 連——絹紬、豆素麵、支那菓子、甘栗、窯業會社製硝子器、陶雅堂仿古陶磁器。
 旅 順——旅順燒、鴉、其他戰役記念細工器。
 熊岳城——梨。
 營 口——支那織物、關東人蔘。
 鄭家屯——蒙古刀、佛像。
 哈爾濱——露西亞菓子、露西亞卷煙草、露西亞更紗、同麻織物、同麻卓掛、同毛布、腸詰及燻製の食料品類、歐洲文具、繪葉書。

(支那)

天 津——菓子、手工品、カーベット。
 北 平——（四七頁ニ、に掲げたる各種物品）
 青 島——支那絹紬、博山硝子器。

上海——(四七頁ニ、掲げたる各種物品) 紫檀細工、象牙細工、陶器及漆器、支那縮緬、西洋雜貨、果實及同製品

蘇州——寒山寺石刷。

杭州——絹織物、茶、扇子。

南京——繻子、緞子、書畫、骨董。

團體旅行の注意事項

申込み就いて

團體の計劃が出来たら、汽車汽船の輸送、旅館の宿泊其他に關し豫約確保するため、左記事項を明示しなるべく前廣に鮮滿案内所に申込まれ度し、其申込みは尠くも出發前十日位の餘猶を、き書面又は來所の上願ひたい。

イ 旅行日程表拾枚

ロ 團體の總人數及其中の代表者氏名

ハ 乗車船の等級及寢臺の要否

ニ 旅館の交渉を案内所に委す哉否、委す場合は宿泊料金の一泊豫定額

ホ 旅館、見物車馬、案内方其他に付案内所以外に貴方より直接又は間接他に依頼の有無

ヘ 團體切符を案内所で發行すべき哉否

申込みは必ずしも鮮滿案内所に限る譯けではないが、驛長に輸送方を、旅館に宿泊方の交渉を各項に付別々の向に申込みを爲す煩瑣を避け、一纏めに一切を鮮滿案内所に依頼するが最も便利且つ簡捷である(案内所は業務一切に付手数料其他如何なる名目でも報酬は戴かない)。

旅館及食事に就て

旅館の交渉を案内所に依頼した場合は絶対に他に重複依頼されてはならぬ。旅行先の知己に對し

又は知己を介し、念のため重ねて依頼することなど時々見受けるが、斯る場合に限り二軒の旅館に約束を爲し其ため宿泊料の二重拂等の紛議が必ず起る。此點は特に注意願はねばならぬ事である。此外宿泊及食事に關し注意事項左の如し。

- イ 旅館の選擇は各地共特に指示なき限り案内所に委されたるものと解し適宜手配する。
- ロ 學生團體の宿泊料は一泊三食附（晝食は辨當）其他の團體は一泊二食附を標準とする。
- ハ 一泊と云ふは前日正午から翌日正午までのことである。故に早朝投宿の場合或は夜出發の場合には別に料金を要する。
- ニ 旅先で招宴其他に依り缺食の場合は前日中に申出れば所定の割引をするが間ぎわの申出には割引の需めに應じない。
- ホ 茶代は一切不要である。女中及使用人の心付は大體勘定の一割で宜い、學生及青年團體等は團員一人一泊に付十錢乃至十五錢位の割合で宜い。
- ヘ 車中の驛辨當は朝の中に乗車驛の驛長又は旅客專務を通し豫め注文し置くことを忘れぬやう

又早朝下車の時朝食を旅館でとる場合、夕刻下車の時晩食を旅館で食さない場合等にも其旨旅客專務に傳達方を依頼すること。

豫定の變更に就いて

一度申込み手配した總べての豫定は變更せぬ様心掛けが肝要である。殊に旅行日程の變更は絶對の禁物であつて、既に準備した諸般手配を根底から覆すことになり、其結果は頓んだ行違ひや間違を生し、迷惑、不愉快を購ふに至る。萬一不得已得旅行日程變更の必要ある場合には、早速案内所、驛長又は旅客專務孰れか便宜の處に詳細を申出で、行先の關係の向に通知方取計はねばならぬ。團體人員に増減を來たした場合は、團體切符を發行する案内所又は驛へ至急通知せねばいけない。團體切符は發行までに相當手数を要し俄かに再發行或は訂補など困難のものである。

尙團體券の發行後不參者を生じ團體人員を減じたるまゝで旅行の場合は、各乗車驛長及乗船長に實際人員の證明を求め置けば、旅行終了後賃金の拂戻し請求の證憑となる。

乗車船に就いて

五四

案内所又は驛に團體乗車の申込みを爲せば汽船に對しても乗船手配は済んで居るが、更らに乗船港に於ては備付の乗船申込書に原籍、現住所、年齢、氏名を記入の上汽船會社に差出さねばならぬ、故に大連、天津、青島、上海及浦鹽等では到着直ちに右乗船手續を済し船室を確保した後、視察、觀光の行程に移る方が宜い。

又旅行日程に示す乗下車船驛では、團體代表者は驛長或は事務長を訪ね一應著離の申告を爲し置くことを御願ひする。

團員名簿に就いて

團體旅行の場合其團體關係者、例へば縣人會と云ふ様な方面から招待を受ける場合とか、特殊な個所視察等の場合、一々名刺を出すとか其都度團員名簿を作成するといふ事は非常に面倒であるか

ら、大型厚紙の表面に、學生團體は學校名及び教職員學生の氏名を、普通團體は代表者及團員の氏名並に住所、職業（其の裏面に旅行日程を印刷し置けは一層便利である）を印刷せる名簿を作成携行される外旅行前豫め右の名簿を御關係の方面に通知して置かれれば一層便利で宜い。尙之れに年齢等を記入せば前項乗船の場合直ちに役に立つ。

寢臺に就いて

二等以上團體にして内地及鮮滿の汽車寢臺を要する時は豫め旅行日程表に其旨明示し置かないと多數の寢臺は急の申込みでは得られない。若し何等の明示なき場合は寢臺不要と解して處理する。又關釜連絡船の二等寢臺、朝鮮及滿洲の汽車三等寢臺も前廣に申込みあれば能ふ限り都合つける様關係の向に交渉する。

東支鐵道の急行或特定旅客列車には其乗車が晝夜の差別なく一様に寢臺料金を支拂はねばならぬ。又普通列車の場合でも連結の萬國寢臺會社の車輛に乗れば前段同様寢臺料金を要する。尙同線

五五

では旅行日程變更のため一度豫約した列車又は寢臺が不要となつた場合でも、當初の豫約通り所定の寢臺料をとられる場合が往々ある、之も東支線旅行者の心得置くべきことである。

旅装及荷物に就て

出来るだけ輕装の洋服が一番宜い。用意として携帯するは朝夜の冷氣に備えるシャツの着替二枚（一枚は厚手のもの）参考案内冊子、通信用具、洗面用具、クレオソート錠等の毒削劑位あれば充分である。其他當用の品は行先きで購入すれば足りる。毛布、雨傘の携行は荷厄介に終る場合が多い。レインコートは携え行き便利のものである。

手廻り荷物は自身運搬始末し得る程度に成るべく壹個に纏め置かねばならぬ、小さな包を幾つにもする荷造りは旅馴れぬ人の不手ぎわである。若し長日子に亘る旅程で相當荷物の嵩張る時は、大型スーツケース壹個を手荷物として託送し（行先の滯泊地まで先送り其地で一度受取ても又託送する方法に依る）行動の邪魔になる手廻り荷物とせないことである。

鮮滿案内所

東京 丸ノ内ビルディング
電話(代表)九ノ内三二二番

東京 丸ノ内ビルディング
電話(代表)九ノ内三二二番

大阪 堺筋安土町
電話(代表)本町一七〇〇番

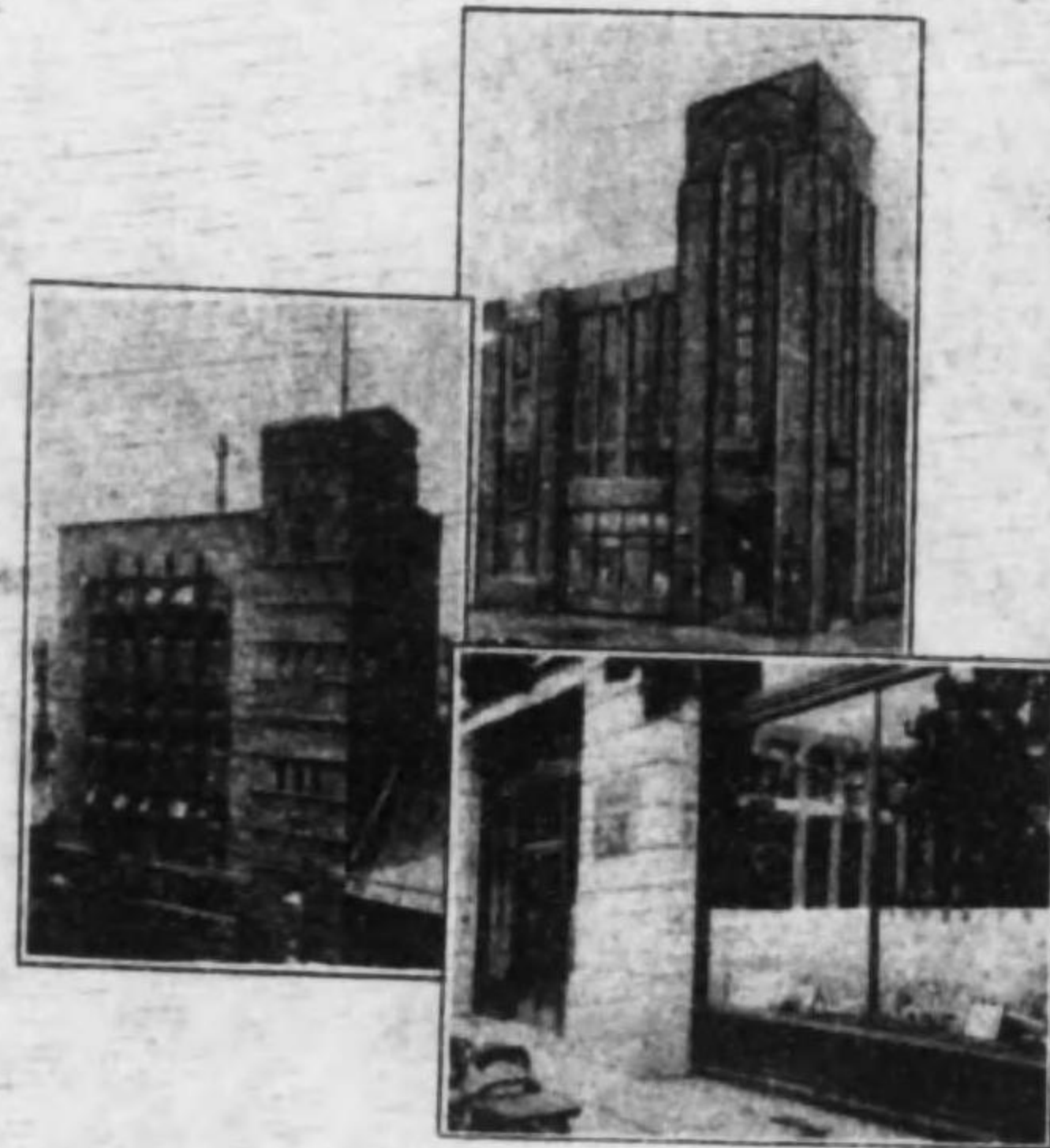
下關 下關驛
電話 前 一九六二番

▲案内所の業務▼

朝鮮滿洲支那に關する各種の質問應答、旅行、通關、貨物に
關する説明、活動寫眞及講演出張
業務一切無手数料

終

昭和五年



所内案滿鮮

(左上真寫)坊堺後大 (右上真寫)前驛關下

(下真寫)川七丸京東